



『SDGs 2 飢餓をゼロに』へ向けて私たちができること
～ザンビアの子どもたちへのネリカ米食料支援プロジェクト～

新潟県立佐渡総合高等学校 農産・加工系列



【はじめに】

2015年に国連で採択された「SDGs」。教科「農業」を学ぶ高校生が、SDGsや発展途上国に対して「私たちに何ができるか」と考えました。そして、『飢餓に苦しむ人々に、自分たちで栽培した農産物を送りたい』と一念発起。日本で日常的に食べられている食べ物ではなく、アフリカのために開発されたネリカ米（陸稲）の栽培に挑戦し、収穫に成功。そして、その収穫物をザンビアの孤児院に送るまでのストーリーです。

【方法および経過】

○ 2020年4月ネリカ米の栽培開始。育苗を行う一般的な日本式栽培。順調に発芽し、5月畑に定植。5月～7月、粒状肥料を追肥。7月30日に出穂を確認。9月29日稲刈りを実施。はざかけによる乾燥をし、もみすりをして精米。



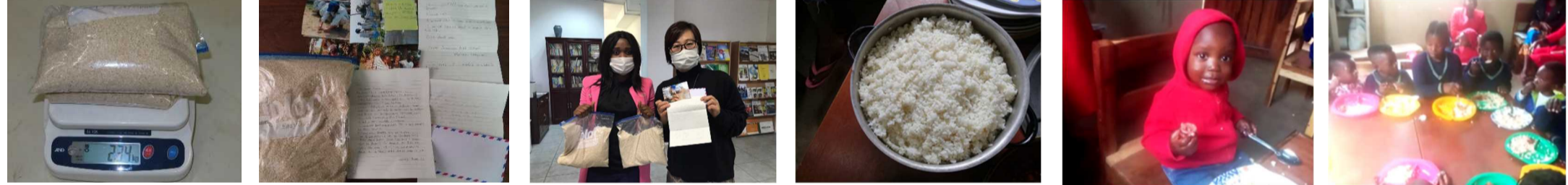
【2020年度、佐渡総合高等学校で栽培されたネリカ米生育・収穫後、精米後の様子】

○ 2021年5月、2年目の栽培。一般的な栽培法と直播き栽培に挑戦。苗の観察や発芽率の計算を実施。



播種の様子 直播きの様子 発芽率の算出 直播きしたものが発芽 定植の様子① 定植の様子②

○ 7月に、昨年収穫したネリカ米をザンビアの「ザイオン桜子ムタレ」さんが運営する孤児院「Cornerstone Of Hope」で食べていただけることに。



2.3kgを郵送 米だけではなく、写真や手紙も ムタレさん(右)に無事到着 炊飯されたネリカ米 ネリカ米食事風景① ネリカ米食事風景②

※ ザンビアでは、お米は、お祝い事で食べること多い食品だそうです。喜んで食べていただいたようです。

○ 10月13日に稲刈りを実施。今年度はビニールハウス内で乾燥させ、1月に精米を完了。2月17日に、2月下旬にザンビアへ渡航予定のJICA関係職員に郵送しました。今年は、コメや写真、手紙だけでなく、1年間の生育調査結果や栽培方法をまとめた資料も送りました。そして、その資料を参考に、来年度は孤児院で栽培に挑戦していただけるそうです！



収穫間近のネリカ米 稲刈り風景① 稲刈り風景② ビニールハウス内での乾燥 脱穀後の唐箕かけ 郵送物一覧 (英語での手紙と栽培中の写真)

○ 3月上旬にザンビアのムタレさんが運営する2つ目の「NSANSA 孤児院」に5kg程度のネリカ米が到着。8日に「米を柔らかめに炊飯し、砂糖をかけて食べる」というザンビアで一般的な米の調理方法で食べたそうです。元ストリートキッズの43名は、とても喜んでいました。



○ 本取組が「新潟 SDGs アワード」で大賞を受賞しました！



○ 今後は zoom を利用して、お米の味の感想を聞いたりや交流をしたりしていきたいです。

新潟県立佐渡総合高等学校
〒952-0202 新潟県佐渡市栗野江 377-1
本校ホームページ
URL : <http://www.sadosou-h.nein.ed.jp/>



本取組みを JICA ザンビア事務所が Facebook にて、
広報していただきました！ 令和3年8月21日更新
JICA ザンビア事務所 Facebook

